

令和 7 年度 東京都地域活動に関する検討会（第 3 回）

事前アンケート 集計結果

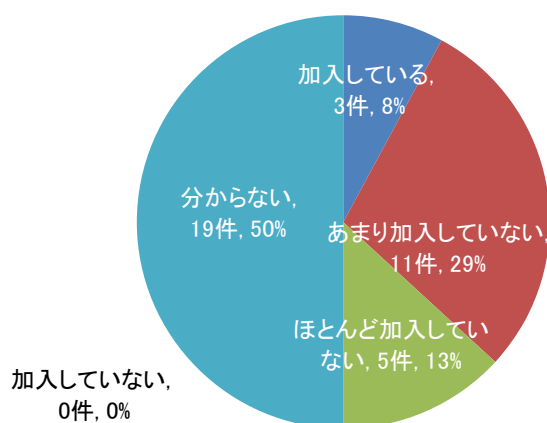
«若者を巻き込む地域活動活性化の取組みについて»

東京都生活文化局

令和 8 年 3 月

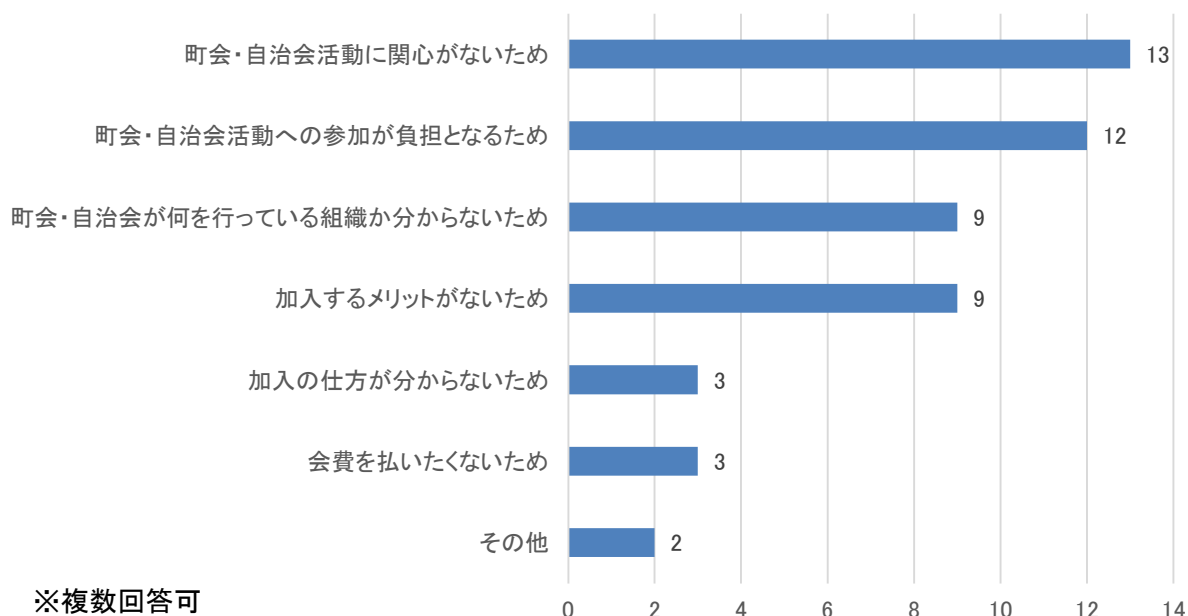
1 地域に住んでいる若者の町会・自治会への加入状況

38 連合会に対し、連合組織又は加入している単一町会・自治会において、地域に住んでいる若者（20、30 代）の町会・自治会への加入状況について調査し、以下のような回答があった。



<若者の加入が少ない原因>

※「あまり加入していない」「ほとんど加入していない」と回答のあった連合会からの回答

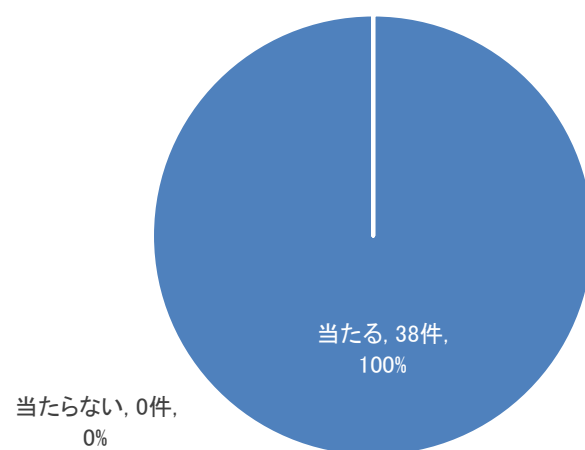


○ その他の回答

- ・現役世代は、育児、仕事等で余裕が少ない。
- ・役員になることの負担が大きい。

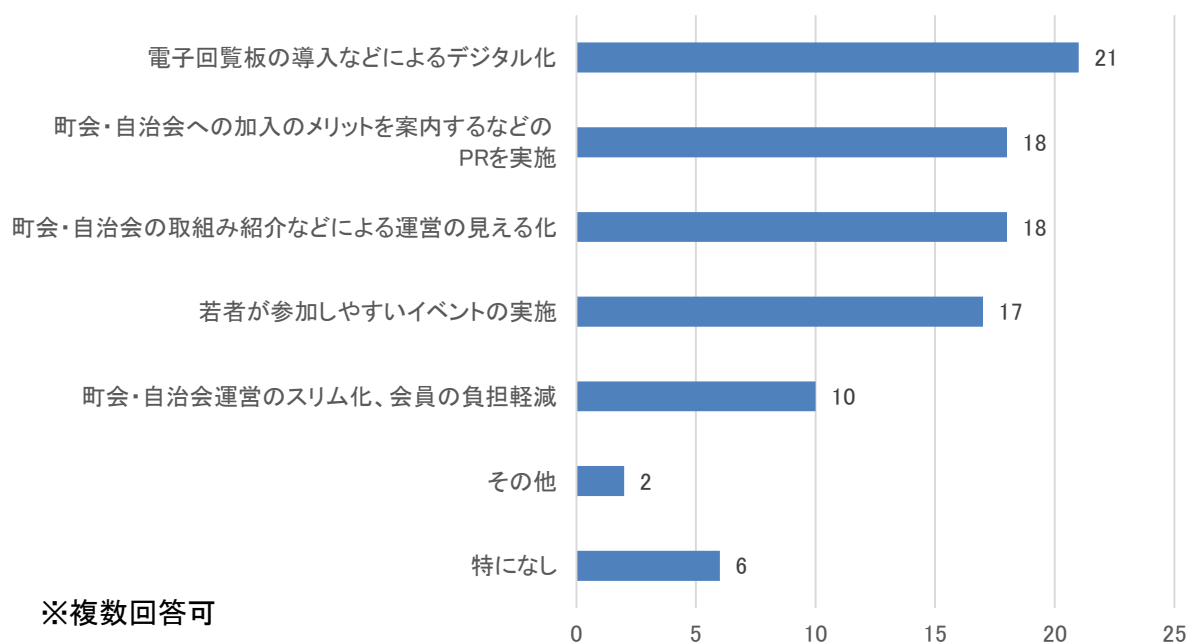
2 役員の高齢化・担い手不足

38 連合会に対し、町会・自治会が抱える運営上の課題として、役員の高齢化・担い手不足は当たるか調査し、以下のような回答があった。



3 若者に参加してもらうための工夫

38 連合会に対し、若者に参加してもらうために工夫している取組みはあるか調査し、以下のような回答があった。



○ 電子回覧板の導入などによるデジタル化

- ・東京都地域の底力発展事業助成を活用して自治会・町会 SNS 活用支援を行っている。令和 7 年度は、LINE 公式アカウント・Instagram のアカウント開設の伴走支援（ガイドブック作成・相談会開催）を行った。
- ・電子回覧板の導入
- ・町会の LINE 公式アカウントを開設、催事等を周知する。（回覧板と併用）
- ・SNS を活用した町会活動の PR
- ・X（旧ツイッター）やホームページ等で町会が開催するイベントや清掃活動等を周知、報告している。
- ・イベントの申し込みをオンラインで受付導入
- ・若い世帯が情報を得られやすいように、区 HP に回覧の電子データを掲載している。また、令和 7 年度よりデジタル事業活用助成として、LINE アカウント作成に関わる経費・ランニングコストに対しての助成金を新設。
- ・子育て世代との LINE グループ編成（グループを通じたイベント等開催案内）

- ・若い家族や子供たちが参加したくなるようなイベントを開催する。例えば、従来からのお祭りや盆踊り・運動会の開催に加えウォークラリーやハロウィンなどの開催。
- ・電子回覧の実施にむけた LINE のオープンチャットの試験的な運用
- ・Google ドライブを活用した資料の共有
- ・町会運営の負担軽減に向けた DX 推進ロードマップの作成
- ・自治連合会として昨年度から今年度にかけて、電子回覧板やトークチャット機能などを含むアプリを市内の自治会（2 団体）に実証実験として導入し、その効果などを検証し、報告会を実施した。
- ・デジタル化については、町内会連合会の部会（DX 化部）で電子回覧板等の実施に向けて検討している。

○ 町会・自治会への加入のメリットを案内するなどの PR を実施

- ・LoGo フォームによる加入申し込み受付・LoGo フォームに繋がる二次元コードをチラシ、ポスター、区報、加入啓発グッズなどに印字、区ホームページに町会ホームページや SNS リンクを掲載し、町会活動をアピール
- ・SNS（HP や Instagram）を活用した町会活動の発信
- ・町会員以外の方に声をかけてイベントを実施（町会 PR のちらし、町会加入申込書を配布）
- ・町会加入促進のためのリーフレットやポスターを作成、配布、掲示
- ・区内最大のイベントである「区民まつり」にて、ブースを出展し、町会活動を周知し加入促進チラシを配布
- ・イベントの実施時にポスターを作成し、その中で運営協力者を募集し、町会加入へ結びつける。
- ・地域のお祭り等で子供にお菓子を配布する際に、その保護者達へ町会事業の PR を実施している。
- ・転入者にリーフレット、チラシを配布し、町会・自治会活動の紹介やインターネット等での加入申し込み方法を案内している。
- ・町内会・自治会 PR については、加入促進のパンフレットを作成しイベント等で配布。各町内会・自治会活動を紹介する活動写真展を開催している。また、市公式サイトで各町内会・自治会活動を紹介している。

○ 町会・自治会の取り組み紹介などによる運営の見える化

- ・お祭りやイベントの時にチラシの配布や声掛け
- ・参加してみたいイベントチラシの作成、SNS を活用した町会活動の広報
- ・若者を含む町会未加入者が町会行事の企画・運営側の仕事を気軽に体験できるよう、「お助け隊」募集のポスターを町会掲示板に掲載
- ・地域のまつりの際に各町会が出店した店頭で町会活動のチラシを置いて PR
- ・ウェブサイトの充実、更新回数の増加

- ・各学校防災活動拠点では、PTA に役員になってもらって、防災訓練の際は PTA の役員及び中学生にも参加してもらい、町会の活動を知ってもらうようにしている。
- ・町会だよりの発行、ホームページの作成
- ・ホームページや SNS 等の導入による活動の見える化についての取組
- ・自治連合会の機関紙に、市内自治会・町会の取り組みについて掲載した。

○ 若者が参加しやすいイベントの実施

- ・ハロウィンイベント、夏祭りの際の子ども縁日、餅つき大会、商店会と連携してプロレスやお笑いイベント
- ・備蓄物資配布や炊き出しした食糧を配布しながら防災訓練
- ・夏祭り等の模擬店を、地元の大学生・高校生・中学生等が企画、運営を担当する。
- ・夜警を行う際に、仮装して実施することにより、若い世代が関心を示して、参加してもらえた。
- ・盆踊りや餅つき大会など、お子さんが喜ぶイベントを実施
- ・子ども会などと連携した子どもも楽しめるイベント開催
- ・やや専門性の高いかつ挑戦的な事業を企画し若者を中心に自治会会員以外も含めて参加募集した。(以下の通り)

①太陽光で充電した蓄電池を活用し SDGs を目指した盆踊り大会を実施した（令和 7 年、8 年）

- ・過去に事例がないので、蓄電池の多方面にわたる性能実証実験から始めた。
- ・結果として 4 時間の盆踊りが成功に終わり、かつ電気代や電気工事経費が節約できた。
- ・多数の若者が挑戦してくれた。そして達成感に満足した様子だった。自治会活動を外部の若者も興味を示してくれた。

②ドローンの活用

- ・地域消防署と連携して、災害時に三次元災害情報をオンラインで提供する事とした。実証実験は地域防災訓練（3 月 1 日）の中で行う。
- ・自治会としては前例のない企画なので、飛行免許取得、役所との空撮許可等若者にとっても刺激のある事業と捉えられた。
- ・子供・若者へのドローン飛行教室を開催（R7, 8 年 3 月）
若者にとって自治会の魅力が伝わることを期待したい。

③災害食調理教室

- ・女性の自治会加入率改善を目指して、女性が興味を示す調理を取り上げた。災害時に簡単に調理できる料理教室を自治会の定例会議に組み込んで行っている。(約 2 年で 100 名の女性参加)

④災害時地元井戸活用令和 8 年プロジェクト

- ・地元で眠っている井戸の、井戸マップ、水質調査、蓄電池と吸い上げポンプ等をプロジェクトとして推進する。

⑤デジタル化推進

- ・デジタル化の有効性を認識し、2020 年から本格的にデジタル部を設立し人材を集めてきた。
- ・タブレットを活用したペーパーレス会議、情報連絡網構築、防災機器管理システム、安否確認システム、お祭りや防災訓練などの受付業務デジタル化や花かけ作業のデジタル化
- ・小さな子どもを対象としたイベント・お祭りなどを開催し、その親にも参加してもらう等
- ・運動会の開催。また、町内会・自治会への加入の有無に関わらず、地域の学校や PTA 等を介して参加を呼びかけ、若年世代にも参加してもらえるようイベントを実施など

○ 町会・自治会運営のスリム化、会員の負担軽減

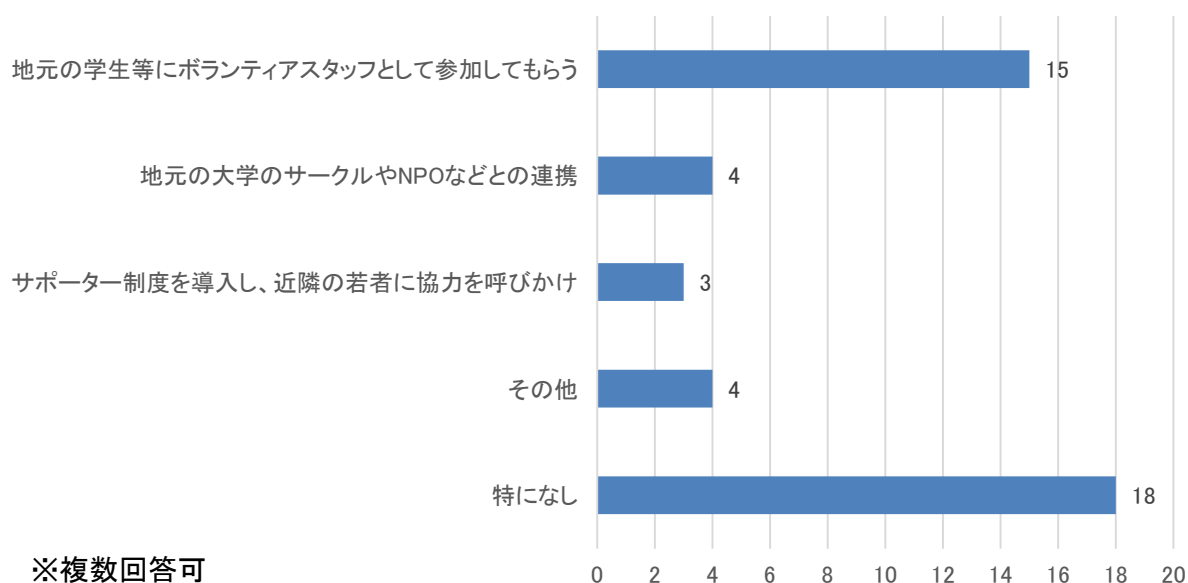
- ・デジタルツールの導入による効率化・負担軽減
- ・エリア内に 3 つある大きなマンションがあり、毎年必ず 1 名ずつ町会の役員になってもらっている。マンションの委員は若手が多く、1 年交代だが、その 1 年の内に町会の役割や楽しみを知ってもらい、1 年たった後も残ってくれる委員が多い。
- ・理事会等の時間を参加しやすい時間帯（平日夜間、休日など）に設定

○ その他

- ・連合町会として、東京都地域の底力発展事業助成を活用した、町会運営や情報発信についてのデジタル化講座の実施による多世代が参加できる町会の仕組みづくり
- ・歳末の行事として、防火・防犯での夜間町内見回り
- ・町会の課題解決のため、専門アドバイザーを希望団体に派遣
- ・各イベントに特化した役割を担う担当者の募集を行い、町会活動の理解につなげる。
- ・小学校入学祝い金など支給
- ・地域内社会福祉法人等と連携した災害助け合い協定締結
- ・若者中心の活動や地域企業との連携支援、高齢者と若者世代との対話交流

4 加入世帯・住民以外の若者の連携・協力

38 連合会に対し、加入世帯、住民以外の若者が町会・自治会に連携・協力するような取組みはあるか調査し、以下のような回答があった。



○ 地元の学生等にボランティアスタッフとして参加してもらう

- ・地域のイベントに地元の学生が参加
- ・地元の大学生がボランティアとして町会活動に参加し、町会運営に対し、意見やアイデアを伝える機会を設けている町会がある。
- ・夏祭り等の模擬店を、大学生が企画、運営を担当する。
- ・町会が実施するイベントにて、町会の方以外をボランティアスタッフとして募集など
- ・地域イベントに管内の中学生やジュニアリーダー等へ運営協力を依頼、スタッフとして従事してもらう。
- ・中学生にボランティアとして参加してもらい、イベントを運営
- ・町会・自治会行事に、地域の中学生在が協力している。
- ・地区まつりでの地元小中学校の模擬店販売、大学実験サークルによる模擬店出店及び出張講座開催等
- ・地元の大学の学生と連携して祭りの準備から当日の運営（ブースの出店）まで参加してもらう。

○ 地元の大学のサークルや NPO などとの連携

- ・区補助金における、地域連携加算（1回5万円×2回）を活用し、NPO・民間企業・大学（ボランティア部等を含む）・PTA（父母会）・青少年健全育成会・商店街・地域スポーツクラブ・消防団 等からの連携・協力を得て、コミュニティ推進活動・青少年健全育成活動をしている。
- ・地域の学校と連携し、祭りへの出展や出し物などで参加を促している。また、ボランティアとしても参加してもらっている。
- ・地元の大学の地域活動貢献部と協働でデジタル化の課題に取り組んでいる。
- ・地元の高校と連携したイベント（お祭り）の開催
- ・大学と町内会・自治会の地区連合会、市が連携し、町内会活動に携わり実践することを通して、町内会活動の改善点を提案する授業を 2026 年度から開講予定
- ・工科大学と連携した自治会のデジタル化支援

○ サポーター制度を導入し、近隣の若者に協力を呼びかけ

- ・役員や班長ではなく「サポーター」として町会活動に参加できる町会がある。

○ その他

- ・イベントお助けバンクの実施
- ・小学校の PTA との協力（地域のまつり、防災訓練への協力）
- ・「まちの腕きき掲示板」事業の活用、町会のハロウィンイベントに“腕きき”さん（ボランティア）が参加
- ・市内中学校 3 校、小学校 7 校の全てがコミュニティスクールに指定され各校で特色ある活動をしている。そのうち 6 校で各地域の町会自治会会長や役員がコミュニティスクール委員として活動し、児童生徒を通して 30・40 代の保護者とのつながりを持つことで地域や町会自治会への関心が高まっていると思う。ある町会では児童がお祭りの楽しい体験から親に町会入会をねだり会員になったケースがある。地道な地域活動が世代を超え、地域の輪が広がっていくことが望ましいことと感じ活動している。